



令和3年9月17日

利府町議会議長 吉岡 伸二郎 殿

教育委民生常任委員長 木村 範雄



委員会調査報告書

本委員会で調査した事件について、利府町議会会議規則第72条の規定により、別紙のとおり報告します。

# 教育民生常任委員会 調査報告書

英語教育の充実と学力向上について

令和3年9月17日

# 教育民生常任委員会調査報告書

## 1 調査事件

英語教育の充実と学力向上について

## 2 調査目的

令和2年度より新学習指導要領が完全実施となり、小学校5、6年生の英語が教科化となった。また、GIGAスクール構想の一環として全校生徒1人1台のタブレット端末も整備された。教育民生常任委員会としては、英語教育の推進と更なる学力向上のため以下の3点を調査項目とし、提言に向け調査・研究を行うこととした。

- (1) ALTの増員について
- (2) 国際交流による国際理解の推進について
- (3) 英語教育におけるICTの活用について

## 3 調査経過

所管事務調査のテーマを「英語教育における現状と課題」に決定し、令和元年9月議員改選以降、以下のとおり本委員会において調査・研究を行った。

※以下は所管事務調査のために本委員会を開催した経過のみを抜粋し記載

令和元年	9月24日	所管事務調査について（会期中）
	9月30日	所管課からの事務概要の聞き取りについて 所管事務調査のサイクルについて
	10月28日	保健福祉課から事業概要等の聞き取り
	11月 8日	生活安全課、町民課から事業概要等の聞き取り
	14日	子ども支援課、生涯学習課、教育総務課から事業概要等の聞き取り
令和2年	2月 6日	所管事務調査テーマの絞り込み
	3月11日	所管課の調査の実施等今後のスケジュールについて
	3月26日	調査内容の確認について
	5月 1日	放課後児童健全育成事業の事業概要と現状及び今後の方針について（子ども支援課）

- 5月12日 英語教育の事業概要と現状及び今後の方針について  
(学校教育班)
- 5月14日 総合型地域スポーツクラブの事業概要と現状及び今後の方針について (スポーツ振興班)  
子どもの居場所づくり事業・放課後子ども教室推進事業の事業概要と現状及び今後の方針について  
(生涯学習振興班)

**提言のテーマを「英語教育における現状と課題について」に決定**

- 5月21日 調査項目を三項目に決定
- 7月 9日 今宮淳美氏との意見交換会  
(GIGAスクール&プログラミング教育について)  
今後のスケジュールについて
- 7月29日 請願第2号の審査における日程調整  
今宮淳美氏との意見交換会の検証  
中間報告に向けてのスケジュールについて

**8月6日から9月4日まで全5回請願第2号の審査を行う**

〔※請願第2号 文化交流センター施設使用条件の堅持及び事業補助金増額に関する請願書〕

- 9月29日 テーマ及び調査項目の再確認
- 10月27日 利府小学校外国語授業視察及び校長との懇談会
- 11月12日 利府小学校外国語授業視察の検証  
中間報告書(案)について
- 12月 7日 中間報告書について(会期中)
- 12月 9日 12月定例会において中間報告の報告
- 令和3年 1月19日 視察研修の日程確認等について
- 2月 1日 青山小学校外国語授業視察
- 2月15日 利府第三小学校校長との懇談会について
- 3月 5日 青山小学校視察及び利府第三小学校校長との懇談の検証について

**提言のテーマを「英語教育の充実と学力向上について」に変更**

- 5月11日 提言内容等の確認について  
今後のスケジュールについて
- 5月27日 利府第三小学校校長との懇談会
- 6月 8日 利府第三小学校校長との懇談会についての検証(会期中)  
今後のスケジュールについて

- 6月24日 松島町英語教育視察（松島町立松島第二小学校）  
7月14日 松島町英語教育視察の検証について  
提言書について  
8月10日 提言書の校正について  
8月24日 提言書の最終校正について

## 4 調査状況

### 本町の英語教育の現状

2020（令和2）年度からの小学校の新学習指導要領完全実施に向けて、本町では英語教育の早期化、教科化に対応できるよう研究と研修を重点的に進めてきた。その事業を推進するための中核機関として、2016（平成28）年度に、「グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方を探る」として「利府町としての特色ある英語教育を創造する」ことを目的とする英語教育指導員会議を立ち上げ、以下の活動を推進してきた。

- ① 小学校の英語の教科化を受け、小から中へのスムーズな移行に取り組む。
- ② 小中高の交流を積極的に進め、共通理解を図り指導に生かす。
- ③ 教科指導から国際理解の推進まで発展させる英語教育を進める。

2017（平成29）年度は、2018（平成30）年度から始まる移行措置に向けて、カリキュラム、時数の運用、指導方法等の論議を進め、「町内共通小学校カリキュラム（小3・小4英語活動15時間、小5・小6英語50時間）」を提案した。また、英語指導初心者のための「クラスルームイングリッシュ（第1集）」を作成し配付した。さらには、「小学校英語教育と中学校英語教育のスムーズな移行を考えた学習指導の改善のため、「小・中・高1本ずつの授業研修」を実施するとともに、全小学校で校内英語研修会を実施した。

2018（平成30）年度からは、移行措置に対応して小3・小4英語活動15時間、小5・小6英語50時間の授業実施に対応するために、実際の授業場面ごとに使用する英会話を整理した「クラスルームイングリッシュ（第2集）」を作成、「小・中・高それぞれ1本ずつの授業研修」の開催、「全国小学校英語教育実践研究大会の参加報告研修」の実施など、小中の英語担当者の力量の底上げを図ってきた。

2019（平成30）年度は、英語の苦手な担任に向けた、「We Can!」等の付属ソフトをインストールしたパソコンを活用した授業研修、ALTを活用した小学校の担任主体の授業研修、小中連携を意図した中学校英語の授業研修

の3本の授業研修を実施した。さらには、今年度、採択され初めて授業で使用する英語教科書に対応できるよう、編集担当者を招請して英語教科書活用研修会を開催するなど、小学校の教科英語の完全実施に円滑に対応できるよう準備を進めてきた。

ここまで研修を進めてきても、小学校教員の英語授業力の向上には、まだまだ課題があるので、令和2年度も地道に研修を企画して進めていく予定である。映像や音声で授業を補助するICTを活用するための環境整備や「ネイティブ」に触れる環境を子ども達に与えていくためのALTの活用なども、さらに充実させていくよう努めていく。

### 視察調査報告

#### (1) 利府小学校の外国語授業視察【令和2年10月27日】

##### ① 5年2組の授業を視察

学級担任とALTマシュー先生の授業であった。初めに、英語で挨拶。その後マシュー先生の「Do you like～」という質問に対し、児童が挙手で「I like～」と答える。児童は1～10までのカードを英語で選び、選んだカードの矢印の方向の児童が着席したり、起立したりゲーム感覚で楽しく授業が始まった。



利府小学校外国語授業視察

授業内容は「Where is the post office?」と道を尋ね、答えるというものであった。その他「Turn right」「Go straight」「Excuse me」「fire station」「post office」「brock」などたくさんの単語が出てきた。

プロジェクターで画面を大きく映し出すので、全員で理解することができ、英語の発音にも慣れることができるようである。耳から覚えることを重視し、意味の理解など細かく求めてはいない。子どもにより理解度は異なり、積極的に答える生徒と戸惑う生徒が出ていることは事実である。しかし、現段階では英語に慣れる・親しむことに重点を置いているのではないかと考えられる。

マシュー先生は日本語が堪能であり、担任とのコミュニケーションも充分にとれているので、小学校のALTは日本語ができることが必要ではないかと感じた。とても内容の充実した授業であった。

## ②利府小学校校長と教育次長との懇談

小学校の給食を試食しながら懇談を行った。パンの日であったが、ラタトゥイユやラビオリスープなど栄養バランスだけではなく、彩り豊かな美味しい献立であった。

懇談の中で授業の始めにゲームを取り入れていること、教材の共有や打ち合わせのためにも

A L Tの質は大事であるとの話があった。プロジェクターの使用については新築時、教室に常設したので準備や片付けが楽である。一人一台タブレットが配布されれば手元でも見ることができ、聞き取れなかった際自分で確認ができるなど利点があるが、ノートと違って保存をしなければ手元に残らない等の弱点がある。

A L Tの授業のメリットは、ネイティブな英語を聞いたり話すことができることである。現在しらかし台中学校の英語専科の教員が、青山小学校としらかし台小学校に行っている。今後、町内全ての小学校に英語専科教員を配置して英語能力を向上させたいとの話があった。



校長室での懇談

## (2) 青山小学校の外国語授業視察【令和3年2月1日】

授業の初めは英語で挨拶、次にその日の曜日、月、日付、天気の確認から始まった。その後児童が全員起立し、専科教員やA L Tの過去形の疑問文「Did you...?」に対して、「Yes, I did.」「No, I didn't」と英語で答えたり、「What did you...?」に対して「I enjoyed...ing」や「I saw...」と答える英語の質疑応答があった。答えた児童は英語で専科教員とじゃんけんをして負けたら自分だけ、勝ったら「Straight」「Side」「Diagonal」を選び、選んだ方向の列の子が座るようなゲーム感覚の授業が行われていた。利府小学校でも教科書の内容に入る前に英語で挨拶、その後英語でのゲーム感覚のやりとりから始まっていたので、利府町内での共通の外国語授業の導入だと感じた。

その後、プロジェクターを使って歌を歌いながら全員で発音をし、教科書68ページ「小学校の思い出を伝え合おう」の授業が始まった。今回の授業は英語でプレゼンテーションを行うというもので、専科教員が小学校の思い出の発表方法について説明を行い、まずはA L Tがプロジェクターを使って出身国であるイギ

リスでの思い出や学校行事などについて紹介をした。担任の先生も思い出について



英語専科教員による説明

て発表をし、ALTと担任でまず児童へ発表についてのお手本を見せた。発表するにあたって「Hello everyone」や「Thank you for listening」など最初と最後の挨拶を行うことも児童へ確認を行っていた。その後児童はグループ（4～5人程度）になり、自分の思い出について発表をし合いグループの中で代表者1名を決め発表をした。発表は実物投影機で自分の書いた思い出をプロジェクター

に映して行われていた。やはり日頃から耳で英語を聞いている分、上手に発音し、スムーズに発表が出来ていたと思う。また、英語が苦手な生徒は英語の発音の仕方をカタカナ語で書いていたりして、遅れがないような工夫をしていたのが見受けられた。

授業の最後には振り返りシートを記入する時間が設けられ、専科教員からはどこがよかったか、悪かったか等具体的に書くように指導されていた。振り返りシートの記入が終わった後、次回ローマ字のテストやリスニングテストがあると専科教員から児童へ周知され授業が終わった。

英語専科が主導的に授業を行っているため、分からない児童や遅れをとっている児童には担任の先生が見て回ったり、グループワークをしているときはALTを含め3人で教室内を回って教えている様子が見受けられた。1クラス25人～30人程度なので複数人で児童を指導できる体制が整っていれば、児童間での英語力格差はそこまで大きく広がらないのではないかと思える。今回の授業内容が発表をメインとしているのもあり、英語教材（CD等）はあまり使用していない。しかし、英語専科教員が日本語と英語を話せるため、児童に日本語で説明をしたり、英語で呼びかけをしたり小学生のうちから中学生の授業の様にスムーズな授業展開がされていることは良いことだと思った。



児童のサポートをする先生達

苦手意識をなくすためにも、習うより慣れる授業として、小学生のうちからALTや専科教員を活用しながら、楽しんで授業を行うことによって学力向上に繋がるのではないかと感じた。



### (3) 利府第三小学校校長との懇談会【令和3年5月27日】

利府第三小学校菊谷校長より、前勤務地である蔵王町の英語教育を中心に話を伺った。

#### ①蔵王町における英語教育の取り組み

平成29年文部科学省の教育課題特例校としての英語特区の指定を受けた。平成30年から令和9年までの10年間である。

小学校での英語教育は、歌やゲームなどで異文化に慣れ親しむ国際理解教育であり、中学校とのギャップがあった。

2020年、学習指導要領が改訂され、「聞く」「読む」「話す」「書く」のコミュニケーション能力が求められる。

蔵王町では、英語教育を町づくりと位置付け、教育総務課だけでなく、生涯学習課、観光課、子育て支援課などと連携して取り組んでいる。

特区を取ることによって、小学校3年生からではなく、1年生から英語活動が出来るようになり、ALTは5名配置となった。

小学校1、2年生は週1回の授業である。1年生でも時間内は原則日本語はなし。担任、専科教員、ALTの3名で行い、分からない生徒には、担任がそっと助けている。ALT5名の他に、CIR（国際交流員）も1名配置されているので、足りないところを補ってもらえることが出来る。なお、専科教員は県負担で1名のみであったが、退職間近の教員を町独自で採用した。

ALTは毎日勤務し、休み時間や給食を共にするのはもちろん、水泳の授業や運動会にも参加している。その他、イングリッシュシネマやイングリッシュキャンプも企画し、絶えずALTと接することにより、英語アレルギーや外国人アレルギーがなく、物怖じしない子ども達が増えている。

1年生からの積み重ねが、中学校に入ってから英語の授業にも良い影響を及ぼしている。



利府第三小学校校長との懇談会

#### ②利府第三小学校でのタブレット活用

学び支援教室を設置し、専任の教員を加配している。現在、不登校などの生徒5名位が通っている。パソコンよりも、タブレットの方が調べ学習を気軽に行うことができる点は重要である。

タブレットの持ち帰りについては、家庭によりネットワーク環境が異なることと、破損やネットなどの悪影響に対するルール作りが必要なため、実施していない。

現場は、初期設定や研修などの業務負担を抱えている。学校によりICTの専門的知識をもった人的支援が必要だと思う。

#### (4) 松島町立松島第二小学校の外国語視察【令和3年6月24日】

##### ①外国語授業参観

##### ○3年生 「I like blue、好きなものを伝えよう」

1人1台のタブレットに好きな色で虹の絵を描く。様々な色の虹が描きあがり、1人ずつ「I like ~」と自分の虹の色を紹介する。授業は担任とALTの2人体制で行い、児童1人1人に目を配っていた。

すべての発表後、世界の子ども達の描いた虹を映像で紹介。時間内でたくさんの英語に接することが出来た。タブレットに絵を描くことは、時間短縮にもなり、生徒達も楽しい様子で活動をしていた。



3年生の授業

##### ○5年生 「What do you want to study？」



5年生の授業

どこの学校でも行われているように、歌やゲームから始まった。

学びたい教科や職業についてグループで学習。手作りのカードを使って、ゲーム性のある楽しく学べるを実践した内容であった。

## ②松島町の英語教育

町内3校の小学校が1つの中学校に入学する。各小学校が同じ水準の学びでなければ困るということで、英語教育に力を入れるため、県の英語教育の指定を受けた（2年間）。それによって、幼少期から小学校まで一貫した英語教育を受けることが出来た。

A L Tは現在2名である。町が直接雇用（会計年度任用職員）することで、学校のニーズに合わせた配置が可能となった。蔵王町と同じく課外活動にも協力し、幼児教育にも携わっている。

英語教育は楽しく学ぶことが基本であり、ヒアリングやスピーキングで自由にコミュニケーションをとれるような方法を大切にしたい。アンケート調査でも、英語が楽しいと答える割合が増えている。



校長室で懇談会

## ③「子ども英語ガイド事業」

観光地松島をPRし、松島に誇りを持てる子ども達の育成を目的に、産業振興課主管で平成28年度から始まった。英語の授業を実践する場として、令和2年度から教育課が主管となった。

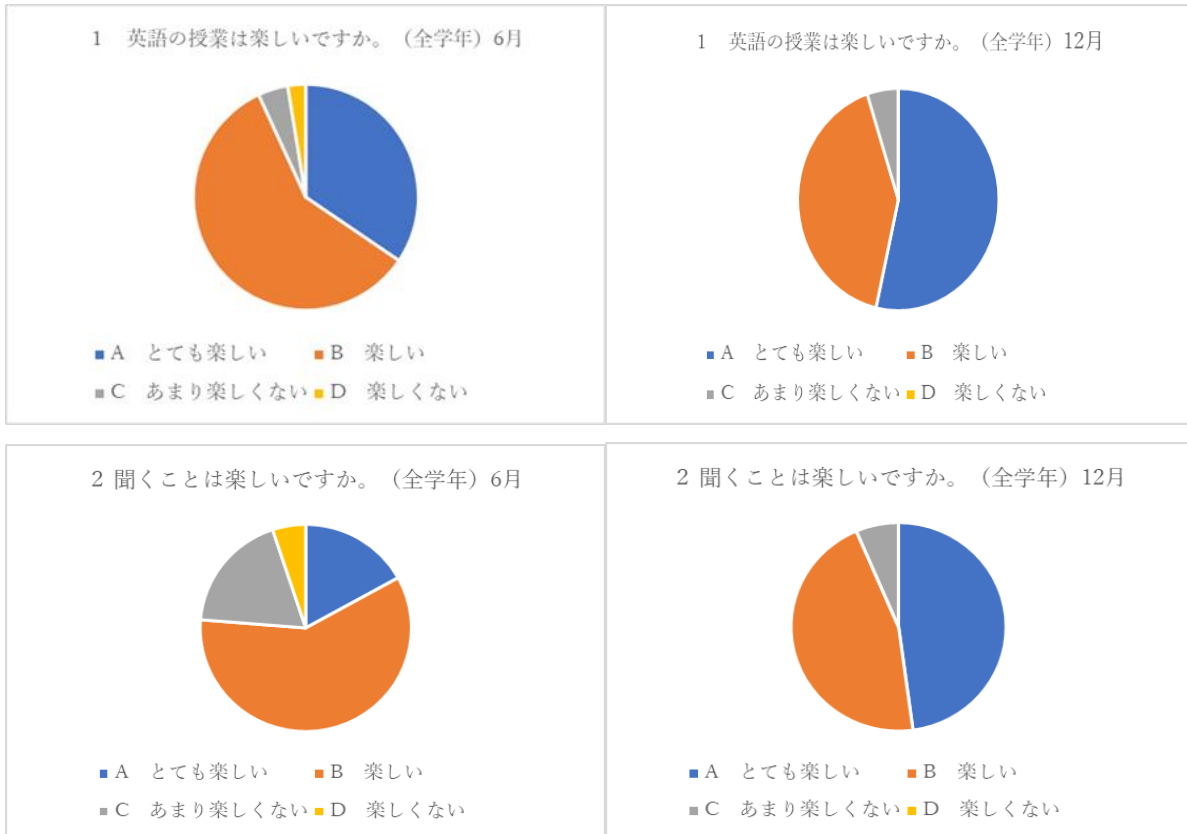
事業費の財源は、ふるさと寄附金である。A L Tも事前研修などのサポートを行い、簡単な英語でも実際に使うことによって自信が持てると期待される。

コロナ禍の今年度は、動画撮影でYouTube配信を予定している。

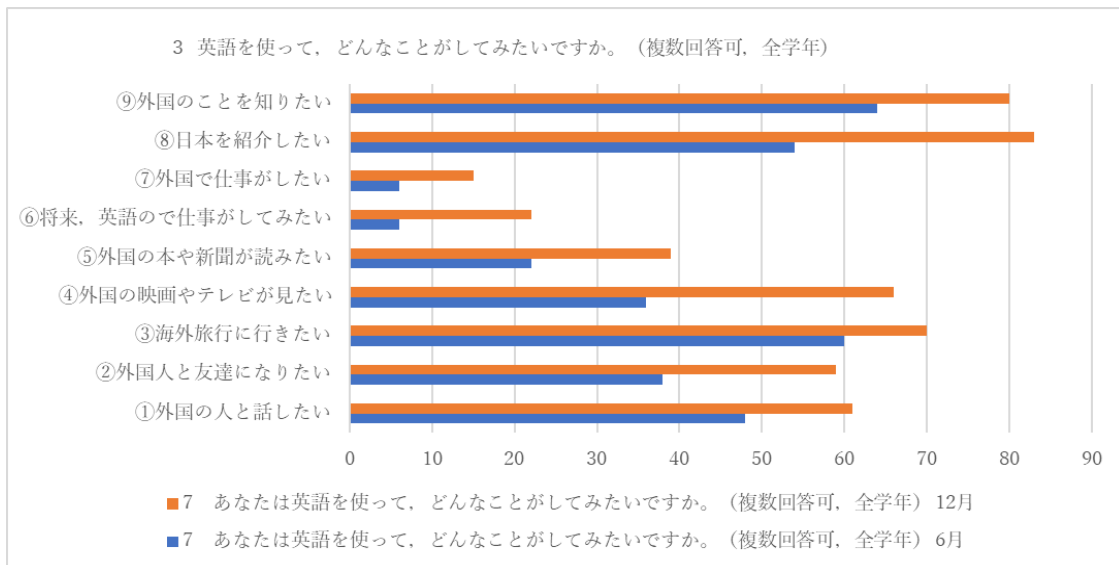


※松島町教育委員会より写真提供

【参考資料】令和2年度 松島第二小学校 児童の意識調査から ～1年間の変容



聞くことに対して肯定的回答をした児童が90%以上。「とても楽しい」と回答した層が約20%増加。否定的回答層は5%程度に減少→理由を読むと、「聞くことになれた」こと、また、「自分の聞く力をALTの会話を聞くことで試そう」としている児童が増えた。



→全学年実施の複数回答可の質問に対して回答数が334→495で160以上増加。6月比で増加した項目は「外国の映画やテレビが見たい」「日本を紹介したい」「将来、英語での仕事がしてみたい」である。



【参考資料】 松島町指差し英会話シート

松島町のALTとCIR（国際交流員）が作成した「指差し英会話シート」。英語が苦手な日本人や、日本語が堪能ではない外国人でも指差しでコミュニケーションがとれます。直接雇用ならでの松島町の取り組みです。

### 会計 Paying the Bill

**Pay together**  
一緒に支払う

**Pay separately**  
別々に支払う

**Cash Only**  
現金で支払う

**Cash**

日本円のみです。  
**Japanese Yen only.**

両替はできません。  
**No exchange for smaller bills.**

**Card**

このクレジットカードはご利用できません。  
**Unfortunately, your card is unavailable.**

ご利用できるクレジットカードはこれです。  
**These are the accepted cards here.**

ありがとうございました！ 楽しい旅を！

Thank you very much! Enjoy your trip!

### いらっしゃいませ Welcome

Welcome

To make communication smoother between English and Japanese, let's use this card. Please point to the relevant pictures. 英語と日本語でスムーズなコミュニケーションを取れるよう、ぜひこのカードをご利用下さい。関連するイラストを指差してください。

**YES**  
はい

**NO**  
いいえ

**I don't understand**  
わからない

Can I help you with anything?  
こちらへどうぞ。  
**This way.**

少々お待ちください。  
**Just a moment, please.**

以上でよろしいですか?  
おすすめはこちらです。  
**This is my recommendation.**

手に取ってご覧ください。  
**Please look a little closer.**

Do you need help finding...  
何かお探しますか

Wi-Fi

ATM

Currency Exchange

Taxi

Restroom

### 飲食 Restaurant Requests

ご注文はお済みですか?  
**Are you ready to order?**

靴をお脱ぎください。  
**Please remove your shoes before entering.**

御用の際は店員にお声がけください。  
**Please call us with any requests you have.**

何名様ですか?  
**How many people?**

満席です。  
**All seats are taken.**

御用の際はボタンを押してお呼びください。  
**Please call us by pressing the button.**

食事の注意点、またはアレルギーや苦手なものはありますか?

Do you have any allergies or anything you would like to avoid?

鶏肉  
**Chicken**

牛肉  
**Beef**

豚肉  
**Pork**

魚  
**Fish**

カニ・エビ・貝  
Shrimp, Crab, Shellfish

卵  
**Egg**

乳製品  
**Dairy**

アルコール  
**Alcohol**

ナッツ  
**Nuts**

小麦  
**Wheat**

その他  
**Other**

菜食主義者  
**Vegetarian**

アレルギーがある  
**I'm allergic to it.**

宗教上の理由  
**Religious reasons**

苦手  
**Prefer to avoid**

### 宿泊 Accommodations

ご予約はお済みですか?  
**Do you have a reservation?**

宿泊代は先にお支払い下さい。  
**Please pay before your stay.**

何泊されますか?  
**How many nights are you staying?**

宿泊代は後程お支払い下さい。  
**Please pay after your stay.**

こちらでお荷物をお預かりしましょうか?  
**We have a free luggage holding service.**

御用の際はフロントまでお越しください。  
**Please feel free to ask us anything.**

朝食の時間は何時がよろしいですか?  
**Please write your preferred breakfast time.**

出発の際は鍵をフロントにお預けください。  
**Please give us the room key before you leave.**

Our Sightseeing Recommendations

**Fukurajima Island**

**Zuiganji Temple**

**Godaido Temple**

**Oshima Island**

**Entsuin Temple**

※松島町教育委員会より資料提供

## 5 「課題」及び「意見」（提言）

教育民生常任委員会として、令和元年9月定例会から令和3年9月定例会まで、「英語教育の充実と学力向上について」の調査研究を行い、以下のとおり町に提言する。

### （1）ALTの増員について

#### 「課題」

現在利府町では、3名のALTが配置され、中学校3校、小学校6校の英語教育に携わっている。

令和2年度の学習指導要領により、中学校の他、小学校5、6年生が年間70時間、3、4年生は年間50時間の英語教育を受けることとなった。また、5、6年生は評価の伴う教科である。

現在小学校の教員は、英語の専科免許を有していない状態である。今年度より3名の英語専科教員が2校ずつ小学校を担当し、ALTと共に教育にあたっている。

英語を習得するには「書く」「読む」の他に「聞く」「話す」が求められ、小学校では特に楽しく学ぶことが大切である。更に機械を通さずに、外国人から活きた言語に触れることは重要であると考える。

コロナ禍において、県内外の視察・研修は困難な状況下であったが、英語教育に力を入れている3町の状況を学ぶことが出来た。

<利府町及び他市町村のALT配置比較表>

(令和3年5月1日現在)

	小学校（学級数）					中学校（学級数）				学級 数計	ALT (人)	ALT ÷ 学級数	※ C I R (人)
	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計				
利府町	13	13	13	13	52	12	11	11	34	86	3	0.035	0
蔵王町	5	5	5	5	20	5	4	3	12	32	5	0.156	1
七ヶ浜町	5	4	6	5	20	6	5	4	15	35	3	0.086	2
松島町	4	4	4	4	16	3	3	3	9	25	2	0.080	0

※C I R = 国際交流員

上記のALT配置比較表から見えることは、利府町の学級数に対するALTの人数が圧倒的に少ないことである。雇用形態なども他町から学ぶ点は多く、顔の見えるALTの存在が必要である。

「意見」（提言）

課題に述べたように、利府町では小・中学校の学級数に比べてALTの配置が非常に少ない。

「利府町総合計画」によれば「令和7年までに6名の配置」とある。国際化が急速に進む中、遅すぎるのではないか。

人選・居住・経費を会社が請け負う業務委託の契約が令和3年度で終了することである。令和4年度からは授業以外にも自由度の高い直接雇用の道を探ってはどうか。松島町のような会計年度任用職員として採用する方法も考えられる。

「楽しく学ぶこと」を主眼に、外国人アレルギーの解消と、コミュニケーション力を高めるためにも、次年度より生徒たちと活動を共に出来るALT6名の配置を求める。

資料①-ALTを活用した英語教育（七ヶ浜町）-

## ALTが主担当、学級担任がサポート 英語教育 高い評価

### 七ヶ浜・亦楽小 小学校初の文科大臣賞

七ヶ浜町亦楽小（児童233人）が、小中高の優れた英語教育を表彰する一般財団法人英語教育協議会（ELEC）の2020年度ELEC英語教育賞で、最高賞の文部科学大臣賞を受賞した。外国語指導助手（ALT）が授業の主担当を務める教育課程「英語コミュニケーション科」が高い評価を受けた。小学校が文科大臣賞を受賞するのは初めてという。

「What club do you want to join?（あなたは何な部活に入りたいですか）」

亦楽小の6年2組で3月中旬にあった授業。卒業と中学進学を念頭に、ALTが入りたい部活とその理由を見事に尋ねた。

コミュニケーション科は町が配置した3人のALTが授業を進め、学級担任がサポートに回るのが特徴。「明るく楽しく面白い」「英語嫌いを出不さない」を言葉に、1年生からネイティブスピーカーの発音に親しみ、「聞く」「話す」力を鍛える。年度あたりの授業時間は最も少ない1年生が34時間で、最も多い5、6年生がともに85時間。各学年とも総合的な学習の時間などを

割いて、主要4教科と同等の時間を確保している。七ヶ浜町は東日本大震災後を見据えた人材育成事業

として英語教育に力を入れた。2016年度に「グローバル」と「ローカル」を掛け合わせた独自の教育施策を実施した。

### 「聞く」「話す」力鍛える



ALTがメインとなる英語コミュニケーション科の授業

英語教育賞へは3校を代表して亦楽小が応募。授与式は3月に東京であった。選考委員の佐々木正文・元全国英語教育研究団体連合会会長は「児童が英語のやりとりを生き生きとしている様子が印象的だ。英語教育に悩む小学校の参考になる」と述べた。

亦楽小の須藤清校長（現町学校教育支援センター所長）は「授業の土台となるのは担任の学級づくりやALTとのコミュニケーションの力量。地道に続けてきたことが評価され、自信と励みになる」と話した。

策「七ヶ浜・グローバルプロジェクト」を始めた。初年度は、国際交流員の外国人が幼稚園などで簡単な英会話を教えたり、子育て支援センターで英語による絵本の読み聞かせをした。17年度は町内3小学校が文科省の教育課程特

令和3年4月19日（月） 河北新報

## (2) 国際交流による国際理解の推進について

### 「課題」

英語教育は、学校での学びだけではなく、幼児からの学習体験や、外国人との交流の中で人との触れ合い、会話する機会を得ることが重要と思う。

利府町は近隣の仙台市や多賀城市、七ヶ浜町などに比べて国際交流に対する取り組みが弱い。留学生の活用や、海外と交流できる人材の発掘に力を入れ、英語教育に資する環境の整備が必要なのではないかと。

### 資料②-オンラインによる国際交流員-



交流の締めくくりとして、画面越しにオーストラリアの小学生に手を振る平沢小の児童たち。蔵王町

令和3年6月22日(月) 河北新報

### 「意見」(提言)

利府中学校では、JICAを通じた国際交流授業や上海の中学校との交流も始まった。青山小学校は、留学生と5、6年生との交流が行われていた。一言でも英語でコミュニケーションがとれた時の子ども達の喜びが伝わってきた。

七ヶ浜町ではALT3名の他に2名のCIR(国際交流員)を配置している。

幼稚園での英会話教室や、子育て支援センターで英語の絵本の読み聞かせなどを行っている。

小学校の英語は、3、4年生からで、1、2年生は行われていない。遊び程度とはいえ、ほとんどの幼稚園・保育園で実施されている英語によるコミュニケーションが途切れてしまう。CIRであれば、幼児や低学年の英語教育が可能となる。生涯学習の中の異文化体験や英語を活用したプログラムも考えられる。SNSを使った観光事業にも寄与できると思う。

国際交流を広めるために、CIRの配置も考えるべきである。

英語が好きになるきっかけとして、留学生や県の国際交流協会(MIA)、JICAなどの協力を得て、全ての小・中学校で外国人との交流が積極的に進むよう町は支援をするべきである。テストの成績ばかりではなく、外国語を習得することによって開ける世界を利府町の子ども達に知ってもらいたい。

## 食通じ英語交流

豪の小学生 そばと枝豆◎

蔵王町平沢小の5、6年生計14人が18日、英語学習の一環で、オーストラリアの小学生とのオンライン国際交流に臨んだ。グイスヤ文化の紹介を通じて、英語によるコミュニケーションに親しんだ。

ニューサウスウェールズ州の私立で日本語を学ぶ6年生とオンラインでつながった。それぞれの国の食べ物を学ぶコーナーでは、平沢小の児童がオーストラリアの発酵食品「ベジマイト」、画面の向こうでは枝豆「そは」を体験。風味が独特のベジマイトは好き嫌いが分かれたが、枝豆「そは」は現地で好まれた。5月14日にオンラインで自己紹介を入れた。

蔵王・平沢小 ベジマイト△



(3) 英語教育におけるICTの活用について

「課題」

タブレット1人1台が導入され、いよいよICT活用の授業が始まった。

英語の教材に関しては、動画やCDの教材が豊富で英語の授業での有効活用が期待される。しかしまだ、家庭への持ち帰りが実現されず、オンライン授業の環境整備もなされていない。

「意見」 (提言)

英語教育においては、1人1台のタブレット端末の活用は、授業内容に様々な利点をもたらす。しかし、導入間もない現在、ICT専門の支援員と研修は不可欠である。

2018年9月に提出した「ICT教育について」の提言書の中で町独自のICT教育支援員の採用を求めた。改めて、支援員の配置を求める。

また、破損や通信環境、ネットやYouTube視聴などの問題で家に持ち帰らせることを禁じている。ルール作りなど問題を早期に解決し、タブレットを使ったオンライン授業が可能となるよう整備を望む。

オンラインはコロナ禍にあって改めてその重要さが認められた。他自治体で行っている数人の生徒の海外派遣よりも、クラスごと、学年ごとの外国の学校との交流が可能となる。

まさに、英語を使つての国際交流がICTを活用することによって実現できるのである。新聞等では様々な学校で交流が始まったとの記事が掲載されている。

町も英語に興味を示すツールとなるよう学校教育の中で、ICTを活用した授業に積極的に取り組む態勢を望む。

資料③-積極的な端末の活用(奈良市)-

■ 教育用端末の活用 学びの道具 自由に楽しませて

奈良市立辰市小学校教頭



岸下 哲史さん

2016年度、奈良県の教育用端末の配備率は47都道府県の中で41番目だった。だが5年たった今、「IGASスクール構想」もとの積極的な端末活用が目ざされる。「やれる先生からどんどんやりましょう。個性を生かして自由に」。奈良市立辰市小学校の岸下哲史教頭(46)は、そう言い続ける。

同市では、昨秋から1人1台の端末(タブレット)が入った。IDは学校で決めているが、パスワードは1年生も自由に決めて自己管理する。「情報社会で生きるには個人管理が当然ですから」。県では昨秋から毎週、教員向け研修がオンライン上で行われ、動画も公開されている。それでも、使ってみようと思えない教員もいる。新しいことをした教員は職員室で内容を共有し、学年を超えて相談しあう環境を整えた。

休み時間も自由に端末を使わせ、家庭にも持ち帰らせる。ネット検索もでき、YouTubeも見られる。保護者からは様々な意見もあるが今は「通過点」。保護者の理解を得るためにも、デジタルを使った教育をどんどん探り入れ、その様子を見せることが一番だ。今日の様子、明日の連絡、宿題、欠席者向けに授業の板書などもタブレットでアップする。5

月には、半日授業にし、5時間目に家庭から一言に双方向でつながりも行った。

4月に着任して、まだ3カ月だが、オンライン交流も積極的に行う。3、4年生は養護学校の児童と交流した。

5、6年生の外国語の授業では、オーストラリアの小学校とつなぎ、自己紹介を。4年生の社会では、市内のほかの三つの小学校と鹿児島県屋久島の小学校とで、SDGsの授業を行う。水質検査のキットで、水道水や地元の川の上中下流の数値を調べる。最後のまめはサイトにアップし、見られるQRコードを、近くのショッピングセンターで配布する予定もある。

「使ってみなきゃわからない。子どもも教員も学びの道具として楽しめれば、保護者もわかってくれる」。

米田やヨーロッパ各地をバックパッカーとして巡り、ドイツのサッカーのクラブチームで1年間活動した。教師になつたのは33歳だ。「多文化共生教育が必要な時代だからこそ、デジタルが生きる。世界は広い!」

編集委員・宮原麻子

■ ここがポイント

端末を持ち帰ってもルールに使うだけなら「紙でいい」となる。調べたことがたり、家庭でも子ども自身が端末で学びを広げる姿を見せられるか、そこが教師力。学校で使う機会は、校長が日々ホームページで発信し続けています。